

対象年度	令和 2年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート					
事務事業名	本場結城紬技術習得奨励金事業					予算事業名	商工業振興事業費	
予算科目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令
			07	01	03	1101	経常経費	
総合計画体系	3歴史と自然を育む活力あるまちづくり(産業)					事業の区分	主要事業	
	3-5つちかわれた技術を継承する伝統産業の振興(伝統産業)						重点事業	
	①伝統工芸の保存・伝承					担当課係等	商工観光課	
事業期間	1結城紬の保存・伝承						商工振興係	
事業期間	継続 (平成 3年度～ 年度)							
【めざす姿(意図・どのような状態になるのか)】					【事業開始のきっかけや他市の状況など】			
伝統工芸本場結城紬製造技術の保存伝承、後継者の確保及び紬産地の安定化を図る。					本場結城紬の技術製造の保存伝承、後継者の育成及び確保を図るとともに紬産地の安定化を目指し、事業を開始した。(栃木県小山市は技術継承を目的とし、市の職員として採用している。)			
【手段(事業内容・どのようなことを行うのか)】					【対象(だれに対して・何に対して行うのか)】			
結城市伝統工芸本場結城紬技術習得奨励補助金交付申請を提出させ、交付決定のあった月の翌月から6ヶ月間、2万円を交付する。					結城紬技術習得に意欲のある者			
					【事業をとりまく環境の変化】			
					伝統的工芸品である結城紬は、消費者の嗜好・ライフスタイルの変化等により需要減少や従事者の高齢化並びに後継者不足の課題が深刻である。			
【令和 2年度 事業内容】			【令和 3年度 事業内容】			【令和 4年度 事業内容】		
結城市伝統工芸本場結城紬技術習得奨励補助金交付申請を提出させ、交付決定のあった翌月から2万円(最高6か月)支給する。			結城市伝統工芸本場結城紬技術習得奨励補助金交付申請を提出させ、交付決定のあった翌月から2万円(最高6か月)支給する。			結城市伝統工芸本場結城紬技術習得奨励補助金交付申請を提出させ、交付決定のあった翌月から2万円(最高6か月)支給する。		

■事業費

		H30年度	R01年度			
財源内訳	国庫支出金	0	0			
	県支出金	0	0			
	地方債	0	0			
	その他	0	0			
	一般財源	360	600			
歳入計(千円)		360	600			
歳出内訳	節(番号+名称)	金額(千円)	金額(千円)			
	19 負担金補助及び交付金	360	600			
歳出計(千円)(A)		360	600			
伸び率(%)			66.66			
備考	総合計画109ページ 予算書130ページ					

平成30年度行政評価シート

■指標

種類	指標名	単位		H30年度	R01年度	R02年度
活動 指標	奨励金交付対象者	人	目標	5.00	5.00	5.00
	対象者に対し、有効に活用できるよう説明を行う。		実績	3.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	奨励金支給者(累計)	人	目標	140.00	143.00	148.00
	対象者に対し、奨励金を支給する。		実績	138.00	0.00	0.00
	継続し就業している者(累計)	%	目標	40.00	43.00	46.00
	奨励金を支給した後、継続して就業している者		実績	42.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	本市の地域資源である結城紬の伝統的技術を後世に伝承するとともに後継者を育成することで、産地として取り組む事業のため必要性は高い。
妥当性	実施主体の妥当性	B どちらとも言えない	行政でもできるが、本場結城紬技術保持会でも実施できる事業と思われる。
	手段の妥当性	B どちらとも言えない	行政でもできるが、本場結城紬技術保持会でも実施できる事業と思われる。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	後継者育成に対する助成については、項目・方法・金額を検討する。
公平性	受益者の偏り	B どちらとも言えない	募集の通知をしているが、対象者要件に達した者に限る。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	技術者育成として、一定レベルの成果はあるが、職業として結城紬の生産に従事することは、生産反数の減少など課題もあるため、補助事業終了後に、離職してしまうため、どちらともいえない。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	後継者育成及び確保の観点において、一定レベルの成果は出ている。

総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください

伝統的工芸品である本場結城紬の振興を図るため、製造技術の保存伝承並びに後継者を育成・支援していくことは重要である。

対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか

後継者の育成支援は伝統工芸品の技術の継承には欠かせない取り組みであるが、生涯学習課（文化庁）：本場結城紬技術保持会において、伝統工芸士を目指す者に対する事業を実施している。今後、生涯学習課を踏まえて同会が主体となり事業実施可能か打ち合わせを行い、より効果的な事業を検討する。

■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））

拡充（人・モノ・カネ等の拡充） 改善改革しながら継続 現状のまま継続（改善・改革なし） 統合・新規事業への展開
 縮小 休止 廃止・終了

改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画）

離職者を減らすことや技術保持会との連携など、効果的な事業となる方向性を検討する

2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））

拡充（人・モノ・カネ等の拡充） 改善改革しながら継続 現状のまま継続（改善・改革なし） 統合・新規事業への展開
 縮小 休止 廃止・終了

企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入）

上記評価のとおり。